

十一日付で「荒井村農業協同組合」として発足し、その設立発起人であった一牛善作が初代組合長となり、翌年改選により越智寅一が、再び改組後の組合長となつた。

昭和三十七年八月一日、既に北会津村が合併成立しているので、荒井・館の内・川南の旧三カ村の農協を合併して、現在の「北会津村農業協同組合」が誕生した。組合員は実に一、六一三名に達する。

北会津村は農業の大改善事業が既に発足しているので、農協はその背景として協力、昭和四十一年には、当時全国十三ヵ所の一といわれる「米麦生産流通合理化モデルプラント」なる偉大な穀納塔が建設された。その年ここに格納した政府壳渡数量は実に一〇万俵余に達し、名実共に福島県第一位の農協にまで発展した観がある。この総経費は実に四、六六三万円に達した。

会津盆地の中にそびえたつ、このモデルプラントの塔は、北会津村が、会津一帯にさきがけて農村建設のために建てた、先駆の希望に輝くのろしのように、盆地の田園に高高と掲げられている。

第九章 教育制度の発達

一、私塾時代

明治以後学校制度が漸次確立されてくると、教育は挙げて学校の独占のように思われ勝ちである。それでは学校のなかつた時代には教育はなかつたかとなると、そう思う人もありないのであろう。現在ほど両親の教育の権威が失墜したことはないなどと極言する人もあるが、幼児の教育の全責任は両親が負うてゐる。教育ママなど